

シニア世代のICT事情

高齢化と情報化

世界に類をみない日本の高齢化の進展は、わが国の情報化の進展とも重なっている。「情報通信白書」(総務省2012)によれば、2011年のインターネット利用率には世代格差があり、60歳未満はいずれの世代も80%以上であるが、60歳代後半では60・9%、70歳代では47・6%、80歳以上では14・3%と利用率は大幅に減少する。

現代を生きる高齢者にとって情報化の進展は、デジタルデバイス(Digital Divide)やICT(Information and Communication Technology)・情報技術)やICT(Information and Communication Technology)・情報通信技術)が生活支援の道具として役立つようになることが光の面をあわせているのである。

シニアネット

中高年の情報格差解消に取り組み自動的な活動のひとつが、いわゆるシニアネットである。「シニアがシニアの教師」というIT学習

が、1986年に発足した米国シニアネットで確立された方法である。この学習形態をモデルとして、日本では90年代半ばから地域ごとにシニアネットと称する団体が設立されてきた。

筆者の地元である岩手県においても複数の団体が設立され、いわてシニアネット(盛岡)とeネット・リアス(釜石・大船渡・陸前高田)の2団体がNPO法人の認証を受けている。eネット・リアスは東日本大震災の後、定期的で開催していた学習活動を停止していたが、昨年の夏ごろから学習場所を変え、変則的ではあっても定期的な学習活動を再開している。また、PCで作成した団扇を避難所で配り、津波で汚れた写真を復元しプリントするなどの復興支援活動も行っている。

このように、シニアネットはIT学習を基盤としながら、その成果を活かし各種の相互扶助的な社会貢献活動に取り組んでいるところが多い。NPO法人シニアSOGO普及サロン・三鷹のキーマンである堀池喜一郎氏は、「60歳からは地域で志事」、「好齢ビジネスパートナーズ」(傍線筆者)など、ユリクな造語で表現し、

小川 晃子 (おがわ・あきこ)

岩手県立大学社会福祉学部教授。1954年生まれ。淑徳大学社会学研究科社会学専攻博士後期課程満期退学。博士(心理学)。専門は地域福祉・福祉情報。主な著書は、『高齢者へのICT支援学』(川島書店)など。

シニアのビジネスと社会貢献の新たな形をアクティブに生み出し、発信している。

101歳ネットワーク ●●●

加齢に伴い身体が虚弱になっても、インターネットによって社会活動を継続する高齢者は、確実に増えている。徳島大学教授の吉田敦也氏が開設するサイトで紹介された99歳の時点で1週70通の電子メールを発信している米国女性は、本講座を修了した瞬間、私は友人と家族にまったく新しい方法で接続されました。そして今までしぼんだ花だつた私はこのときから大きく開いたバラとなつたのです」と発言している。インターネットが、90歳代の高齢者にとっても、いや90歳代の高齢者だからこそ、エンプワメント⁽²⁾の道具になることを如実に語っている。

日本においても先駆的な高齢者は存在する。筆者にとって最高齢メル友でもある1910(明治43)年生まれ満101歳の野瀬清次氏は、福岡の有料老人ホーム入居後の89歳の時にホームページ⁽³⁾を開設している。野瀬氏は、インターネットを活用した大学の通信教育を受講したり、障害者を対象とした情報ボランティアもしている。東日本大震災後に筆者が野瀬氏から頂戴した見舞いのメールには、次のように記されている。「僕も100歳を超え歳月の早さを知る。何か社会に貢献する事を考え拙文を纏め、日本は世界



いわてシニアネット IT サロンの様子 (提供)いわてシニアネット

の苦境でも二つ間違えば大変なことになると想い安心はきんもつであらう。何とかポチポチ歩きで生きています。皆さんとの対話やパソコン連絡など効果があるようです」(原文のまま)。

ディーゼルエンジンの著名な技術者であった職歴をみればパソコン使用に抵抗感がなかった特異な事例ともいえようが、100歳を超えてパソコンを活用し自己実現を図っている野瀬氏は、高齢化と情報化が重なって進展する時代のひとつのモデル像といえよう。

おわりに ●●●

CMC(Computer Mediated Communication)を利用することにより、従来の形態を超えて様々な人と交流できることは、高齢者の自己実現やサポートネットワークの拡大を意味している。団塊の世代が60歳代半ばに達した今、定年後の暮らしの再構築手段として、インターネットの新たな活用方法がさらに生みだされていくのではないだろうか。

CEL

- (1) <http://blog.livedoor.jp/sukoyaz008/>
- (2) エンプワメント(empowerment)は、本来、能力や権限を与えることの意味。ここでは、個人や集団が自分の人生の主人公となるように力をつけて、自身の生活や環境をよりコントロールできるようにしていくことを意味している。
- (3) <http://www.w3.ocn.ne.jp/nose/index.html>